

共同研究開発事業報告書

1 事業名称

化学療法抵抗性悪性腫瘍の画期的診断薬の開発

2 実施期間

令和 4 年 7 月 25 日 から 令和 5 年 3 月 9 日

3 実施場所

大阪大学医学部最先端イノベーションセンター8F801B

4 連携した大学、研究機関等の名称（産学連携の場合）又は団体の構成員の名称（企業間連携の場合）

大阪大学医学部・臨床遺伝子治療学

5 事業の経過及び内容

血中の病的ペリオスチン測定装置の作成を進めている。今後臨床で使用できるような診断薬にするためには測定間のばらつきが一定程度小さいことが求められ変動係数 CV%を 10 以下にすることが望ましいが、当初これが達成されなかった。その後様々な融解バッファーを変えて試験したところ界面活性剤の強いバッファーで CV を 1 桁に低下できたのでキットの性能試験を進めている。現在、キット側の改良をさらに進めている。

6 事業の成果

少数の患者さんの血清サンプルを用いて、病的ペリオスチンを測定することに成功した。これまでは正常コントロールの生体で分泌されている生理的ペリオスチンと病態モデルの生体で分泌されている病的ペリオスチンを合わせた全ペリオスチン測定装置しかなかったので世界初の病的ペリオスチン特異的測定キットが完成した。

7 今後の展望

今回の病的ペリオスチンは特定の病的ペリオスチン測定装置であり、今後異なる病的ペリオスチン測定装置の作成も予定している。

8 今後、産学連携や企業間連携により事業を実施する事業者への助言等

装置の作成では、予想しない問題点が発生する可能性があるのでその問題を解決する手段を考察し、克服する必要がある。

<御注意>

本報告書は、補助金交付後、吹田市のホームページ上で公開します。
広く市民の方が読まれることを想定し、できるだけ理解しやすい説明となるよう配慮して御記入ください。